

令和7年度 授業改善推進プラン5年（課題分析と授業改善策）

	課題分析	授業改善策	2 学期	3 学期
国語	①自分の意見や考え、感想を書くことに課題がある。	①簡単な定型文や関連するキーワード、穴埋め文などを提示することで、児童が考えを書きやすくなるよう指導の工夫をする。		
社会	①「自分で考えを書いて説明する」という問題に対応できない児童が多く見られるため支援が必要である。	①授業のまとめを「穴埋めにする」「キーワードを提示して自分で文章を書かせる」ことで、要点を押さえて書く経験ができるようにする。		
算数	①文章題の立式を苦手とする児童が多く見られるため支援が必要である。	①「わかっていること」「もとめるもの」に線をひく活動と、図・数直線・テープ図などで関係を整理する指導を、習熟度別クラスの実態に応じて取り入れる。		
理科	①学習した内容が、知識として定着していない可能性がある。	①論理的に思考したことを自分で言語化できるように考察の指導を丁寧に行う。また、得た学びを汎用できるように、他の実験方法で確かめた場合を動画で確認したり問題形式で説いたりする。		
音楽	①思いや意図を持つこと、それが表現に繋がる部分に課題がある。 ②音楽を形づくっている要素を聴きとり言葉で表現する、音楽を聴いて感じたことを表現することに課題がある。	①楽曲の背景を理解しさらに自分の思いをもつことや、それを周りと共有する活動、楽譜を読み取り分析する活動を増やし、表現の助けになるようにする。 ②周りと話したり発言したりして共有する。音楽を形づくっている要素の言葉の選択肢を示す。		
図画工作	①活動の流れを理解し、友達と協力し取り組むことができるが、一人で活動を進めることに自信がない児童が多い。 ②発想を深めずにすぐに仕上げようとする児童と、時間がかかってしまう児童もいて、進捗や内容に差が出てしまうことへの支援の必要がある。	①全体で活動の流れを共有し、可視化して一人でも迷わず進められるようにする。 ②活動の途中でも、全体でそれぞれの活動やアイデアの良さや面白さを共有するなどして、視野を広げたり、方向性を見つけたりできるようにする。		
家庭	①生活経験の違いから、裁縫の技能の面で個人差が大きい。	①ICT を活用して基礎・基本の技能の理解を図る。 ②ペア学習やグループ学習での教え合いを通して、技能の習熟を図る。		
体育	①各単元において運動（特に器械運動）に消極的な児童への支援が必要である。	①場や教具の工夫、個の技能に応じたスモールステップの指導、児童同士の教え合い活動、ICT を活用した動きの撮影等の手立てを実態に応じて設定していく。		
外国語	①スピーチ、会話プレゼンテーションの場で小声になったり早口になったりしてしまう児童への支援が必要である。	①ICT を活用したり、ビンゴゲームなど外国語に慣れ親しむ機会を設けたりする。個人・ペア・少人数グループ等の様々な形態で、発表前の授業において十分練習ができるよう時間を設ける。		
道徳	①登場人物の心情、課題から自分ごととして考えることが難しい。	①毎時間の道徳的価値を明確に提示し、自分ならばどうするか、自分の良い所は何かを考えさせる。話し合いの中で、他者の意見を受け止める態度を養い、児童同士の気付きや同意を板書などでまとめ、多面的・多角的に考えさせる。		
総合	①課題を追究する力や情報を収集しまとめて表現することが難しい児童への支援が必要である。	①どのような情報を集めたらよいのか方向性を提示する。画像処理、説明画面などのプレゼンテーションソフトの効果的な使い方についての指導をする。		
ICT 端末の活用	①文字入力に時間がかかる児童がいる。 ②学習において、より理解力を付けるためのアプリケーションの活用力に差が見られる。	①タイピング活動を取り入れることにより、文字をスムーズに入力する力を高めていく。 ②算数科において、「navima」を活用して既習事項の復習を推進する。 ③作品や考えの共有を行う場面において「スクールタクト」を活用し、児童同士が互いのアイデアを把握しやすくする。 ④まなびポケット「チャンネル」又は「class room」を活用した学級①学年への連絡を行う。 ⑤体育科の学習において、自分の体の動きを客観的に把握する手段としてカメラ機能を活用する。		